

映画のロケが終了しました！！

『PとJK』という映画のロケが、函館では6月中旬に始まり、7月中旬に終了しました。三次マキさん原作のマンガを吉川菜美さんが脚本化し、廣木隆一監督の下、撮影が進められました。かなりの撮影が遺愛で行われ、生徒の皆さんも教職員も興味津々でした。遺愛の本館は築108年で、近々全面的に耐震補強工事に入るために、遺愛学院にとっては本館の記録としても価値が出てくる映画になりそうです。俳優としては、亀梨和也さん、土屋太鳳さん、高杉真宙さん、玉城ティナさんらが来校しました。俳優さん達の遺愛での撮影最終日の朝、遺愛アリーナでの全校礼拝後、亀梨さんと太鳳さんから、御礼のご挨拶がありました。生徒の皆さんには本当にサプライズで、感激で泣き出してしまう生徒もあり、在学中のとても良い思い出になりました。

国の重要文化財である校舎を、とても大切に撮影して下さい、終了したときには、スタッフの皆さんが教室、廊下、道路などを撮影前よりきれいにしてくれました。

印象的だったのは、制作担当の小沼さんの仕事ぶりでした。最初の打ち合わせの日から、最後の撮影終了後の後片付けの日までビッチリ現場にいて、朝早くから夜遅くまで関わり、掃除や物の移動までしてしまうパワーどこからくるのか、また、気配りも本当に素晴らしく、遺愛と現場との潤滑油役を見事に果たしていました。

また、美術担当の松本さんからもお話しを伺うことができました。『トウキョウソナタ』の黒澤清監督との出会いで、映画美術に深く関わることになったそうです。黒澤監督は、2008年当時、遺愛のPTA会長だったシネマアイリス代表の菅原和博さんの紹介で、遺愛に来校し、『トウキョウソナタ』を上映し、生徒の前で菅原さんとトークショーをして下さいました。この作品がフランスの第61回カンヌ国際映画祭で「ある視点」審査員賞を受賞する直前でした。特に縁を感じるのは、今回の「PとJK」主演の土屋太鳳さんも13歳で『トウキョウソナタ』に出演し、映画デビューしていたことです。

『PとJK』には校舎やキャンパスと共に、遺愛の吹奏楽局員、チアリーダー一部員、先生も出演しているようです。来春の上映が、今から楽しみです。

2016年7月19日(火)



遺愛前庭でのロケ風景